

試聴会・訪問記掲載

上新電機オーディオ試聴会 (2019.7.21)

—アキュフェーズ A-48 試聴会—

1. はじめに

上新電機日本橋 1 番館で開催されたアキュフェーズ新製品の A クラスパワーアンプ A-48 の試聴会に行ってきました。

2. 使用機器

スピーカー：B&W 802D3

パワーアンプ：アキュフェーズ A クラスパワーアンプ [A-48](#)
(ブリッジ接続のため 2 台準備)



プリアンプ：アキュフェーズ C-2850

SACD/CD プレイヤー：アキュフェーズ DP-750



当日のセッティング

3. 試聴会の進行

試聴は、A-48の技術解説を交えながら、CD、SACD、ファイル音源など、多様な音楽ジャンルから再生することで進行しました。

最初は、ブリッジ接続しない状態で、CDとSACDの再生からスタートしました。

この種のデモではめずらしく女性ボーカルではなく、バッハのチェロ組曲、プレイエルを使用したピアノ曲、アイダから凱旋の行進の場面とクラシックを立て続けに3曲聴くことから始まりました。チェロの低音部が膨らみがち、プレイエルの左手の音がぼやけ気味、アイダの合唱が混濁気味のところが気になり、せっかくのラインアップの実力が発揮されておらず、アンプの能力とスピーカーの低音のクオリティとがアンマッチングのような印象です。アイダもSACDらしさを感じられません。

次にJazzトリオと女性ボーカルの入ったJazzがかかりましたが、これはこれで切れ味良く、低音もよく弾んでいます。女性ボーカルの入ったJazzはアキュフェーズの音決めのリファレンスに使われるとのことでした。

次はバッハのコラール集のオルガン曲のSACDでしたが、やはりペダル領域の音ははっきりせず、低音の持続音は生音らしさがでてきていません。

ついでアコーディオンでピアソラがかかりましたが、切れ味の良さがよくでていました。

ここで、通常接続とブリッジ接続との比較ということで、ラ・カンパネラを、始め通常接続で聴いておいてからブリッジ接続に変更したところ、がぜんピアノらしさが出て、特に左手の低音部のクリアーさが向上しました。

以後はブリッジ接続のままで、マリンバのデュオと女性ボーカルが続いて2曲かかり、ブリッジ接続の効果が効いてか、随分と表現力が向上しています。後者の女性ボーカルは、井筒香奈江のCDとPCからDP-750のDACに同じ曲の11.2MHzDSD

を送りこんでの再生でしたが、DSDらしい細やかな表情と声の自然さが際立ちました。

PCからのJazz音源の11.2MHzDSDの後、ゲルギエフの展覧会の絵と神尾真由子のパガニーニで締めくくりとなりましたが、前者は音量が小さすぎ、後者は音量が大きすぎて、オーケストラの迫力が不足し、また、神尾真由子のストラディヴァリウスの繊細感が不足し、きつさが目立ちました。デモの担当者は実際のコンサートの経験不足のように感じました。なお、ブリッジ接続でも展覧会の絵のグランカッサとティンパニが、ぼやけ気味で、やはりスピーカーとの相性があるような印象でした。

4. まとめ

A級アンプでのB&Wでの駆動が難しいせいか、前半はすっきりしませんが、ブリッジ接続することにより、駆動力がまして、様変わりしました。クラシックの選曲では何故か、日本人の演奏が多く、音の判断以前に一部は演奏技量の方に神経が行ってしまいがちでした。こういったデモでは、クラシックの優れた演奏の名盤を使ってほしいと感じました。

以上